東京学芸大学附属高等学校紀要　43　pp.69～79，2006

近隣住民対象インターネット体験教室という試みについて

―― インターネット保護者見学会との比較から，その準備・実践・総括 ――

On an Attempt of an Experience Class in Internet for Nearby Neighbors
— Preparations, Practice and Consideration, Comparing with an Experience Class in Internet for Parents or Guardians —

教育工学委員会

坂井 英夫，森棟 隆一，浅田 孝紀，宇佐見 尚子，西村 諭，安井 崇，松本 至巨，吉野 聡，
大谷 晋，菅原 幹雄，祖慶 良謙，川角 博，小境 久美子，尾澤 勇，荒井 一浩，根本 賢一

<要旨>

本校では以前より保護者を対象としたインターネット見学会を行ってきたが，本論で挙げるようなさまざまな理由から今年度に近隣住民を対象としたインターネット体験教室を開催することとなった。これまでインターネット保護者見学会において獲得したものを転用できる部分とその対象を近隣住民としていることから生ずる特殊性も確かに存在した。

以下，既存のインターネット保護者見学会との比較をしながら，近隣住民対象インターネット体験教室の準備，実践そしてその総括を行い，今後に資することをその目的とする。

<キーワード>　回線使用料，インターネット保護者見学会，国立大学法人化，開かれた学校，コンピュータリテラシー，情報教育，下馬新生自治会，個人情報保護法，暑中見舞い，Web 検索

はじめに

これからの子ども達に求められる資質や能力とは，他律的なものではなく，「自分で課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する能力」や「自らを律しつつ，他人と協調し，他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力」である。すなわち，この変化の激しい現代社会を「生きる力」である。

こうした「生きる力」は学校という場だけで身につけることができるものではなく，学校・家庭・地域それぞれがその役割を果たし，十分に連携した上で初めて子ども達は獲得することができるのである。学校においては，家庭や地域とともに子ども達を育てていくという視点に立って，家庭や地域に対して積極的に働きかけを行うとともに，学校運営についても，家庭や地域の意見等を把握しながら絶えず見直し、改善の努力をしていく「開かれた学校」作りを進める必要がある。

それを情報教育という視点から具現化したものが，インターネット保護者見学会であり，近隣住民対象インターネット体験教室である。すなわち，この近隣住民対象インターネット体験教室の開催により，その三位一体が初めて構築されたことになる。

1．インターネット保護者見学会について

1－1．インターネット保護者見学会実施の背景

本校では 1996 年度によりインターネットおよびコンピュータネットワークの運用を開始している。そして，その運用を担っているのが教育工学委員会である。

NTT との共同研究期間中については，回線使用料は無料であったが，共同研究終了後はその使用料金が発生することとなった。回線使用料の国費（現在では大学法人の経費）からの支出を要求しているが，現在までにそれが認められたことは一度としてないのが現状である。そのため，回線使用料を保護者にご負担いただいている。コンピュータネットワークの生徒活用のために，保護者が回線使用料を負担いただくのは当然のこととかもしれないが，生徒が利用しているネットワーク環境を体験いただき，本校の情報教育への理解を求めることが大変重要であると，教育工学委員会は考えている。このことが，インターネット保護者見学会を実施することに繋がっているものと考えられる。

1－2．インターネット保護者見学会の概要

現在，インターネット保護者見学会は年に 4 回開催されている。具体的には 1 学期に 2 回，2 学期に 2 回の開催である。実施開始当初は初級編だけを実施してきたが，

2003年度より中級編も実施している。初級編，中級編の内容は以下の通りである。

－初級編－

・校内ネットワーク，コンピュータ室，バーチャルルーム等の設備の紹介
・管理職，委員長の挨拶
・情報の授業が行われている視聴覚室の説明
（以前はネットワーク活用の歴史の説明があった）
・コンピュータの電源の入れ方と，デスクトップ環境とサーバーへのログインの説明
・電子メールの使い方の説明とその実習
（座席が隣になった方への送信，自分の子どもへの送信等）
・Webブラウザーの使い方の説明，本校Webページの紹介と閲覧
・Yahoo等の検索サイトを利用しての，Web検索の体験（夕食のレシピを検索して，印刷をする）
・電子メールを用いて，本日の感想の送信
・希望者に対する校内の見学

－中級編－

・管理職，委員長の挨拶
・コンピュータの電源の入れ方と，デスクトップ環境とサーバーへのログインの説明
・デジタルカメラの使い方の説明
・校舎内外の好きな場所を散策しながら，デジタルカメラの撮影の体験
・撮影したデジタルカメラのデータをパソコンに取り込む方法の説明とその実習体験
・ワープロソフトを用い取り込んだ画像データの挿入方法の体験
・画像に簡単なコメントを入れた後，その文書をhtmlファイルに変換する方法の説明と体験
・本校サーバーの体験用のディレクトリにhtml文書をアップロードする体験
（一定期間は，自宅のブラウザーからも閲覧できるようにしている）
・電子メールあるいはワープロ文書による感想作成

2．周辺住民対象の体験教室実施の背景

このような中で，教育工学委員会が周辺住民へのインターネット体験教室を検討するに至った背景として，次のようなことが考えられる。

1）国立大学法人化による「開かれた学校」を目指す試みとして有効な手段である。

従来の国立大学附属学校の体制下では，校内の施設を周辺住民にお貸しするにしても高額な借用料を請求せざるを得ない状況があった（以前は近所づきあいの感覚でグラウンドを使っていただいた時期もあったが，安全に対する責任もあり，現在はお断りしている状況である）。また，校舎内の見学や授業の参観等も教育関係者には広く開かれているが，一般の方へは十分開かれているとはいえない状況である。

そのような中で，2003年度に初めて学校説明会が開催された。本校の教育方針を受験予定者にしっかり伝え，本校の教育理念を十分理解した生徒（保護者）に入学して欲しいという教職員の気持ちの表れであると考えられる。2002年度までは，附属中学の保護者対象に本校の見学会が実施されているだけであり，学校の説明パンフレットすら存在しない状況であっただけに，学校説明会の開催は本校にとっては画期的な企画であるといってよいだろう。

最近では，公立高校での体験授業，学校説明会，公開講座の検討・実施が進められており，「開かれた学校」づくりが模索されている。本来，「開かれた学校」づくりは教育行政が検討すべきものであるという意見もあるが，行政の検討を待っていては，本校が目指す形と異なる提案がなされる可能性がある上に，実施が社会の要請に対して遅れてしまうことになりかねない。先に述べた保護者向けのインターネット見学会がある程度軌道に乗り，保護者に良い評価をいただいている実績をもとに，本校自らが「開かれた学校」づくりの試みとして，主体的に周辺住民へのはたらきかけをしていこうという意見が委員会内で出されたのは，本校教育工学委員会の先進的な教育実践に裏づけされたものといってよいだろう。

2）本校の教育を近隣住民に理解していただくきっかけ作りとして有効な手段である。

本校と近隣住民との関係は必ずしも友好的なものであるとはいえないのが現状である。登下校時の生徒のマナーに関する苦情は少なくない。ある時間帯に生徒が集中して登下校することもありやむを得ない面もあるが，生徒のモラルの低下もあって，「ぶつかっても謝らない」「注意すると逆に睨みつけられる」「罵声を浴びせられた」等の苦情もあり，生徒指導部の教員が対応に追われている。一部の生徒の心無い行動が，近隣住民の本校に対する評価低下に繋がっていることは間違いないであろう。

一方で，体育祭や辛夷祭（本校文化祭）で近隣住民の挨拶を生徒が行なった際に好意的な住民も少なくないが，生徒の話に耳を傾けようとしない方もいることも事実である。事前に挨拶をしたにも拘わらず苦情が必ず数件は寄せられ，管理職や事務職がその対応に追われている。

さらに，校庭の砂や校内の樹木の落ち葉が飛散することによる苦情も秋から冬にかけて多く寄せられており，生徒が落ち葉清掃をしたり，樹木の剪定をしたりする等，学校として様々な対策を講じているものの，その対策に対しての評価がなかなか得られにくいことも事実である。

このような近隣住民の苦情は，色々な側面をもっており簡単には考察できないが，本校の教育が周辺住民に理解されていないことが無関係であるとは思えない。マスコミが本校について伝えている情報は，ある側面（例えば，受験実績や学校の偏差値等）に限られており，本校が実践している教育の真の姿が伝えられているとは到底いえない。そのような観点に立つと，本校教育の真の姿を理解してもらうことが極めて重要であると考えられる。1）とも関連すると思われるが，近隣住民に本校を理解してもらい，身近な学校と考えてもらうためにも，学校に来てもらって学校の姿勢を見てもらうことが大切であり，そのために体験会を実施することは，極めて自然な流れであるといえるだろう。

3）本校の情報教育を広く一般に公開する試みとして有効な手段である。

本校は，新教科「情報」を新課程実施に先駆けて1999年度から第1学年に対して1単位設定し，先進的な教育実践を行なってきた。その当時から，毎年3月に情報教育公開研究会を実施し，情報教育関係者に広くに公開してきた。しかし，その公開の対象が十分なものかについては疑問である。2003年度の情報教育公開研では，本校への入学希望者が公開研への参加希望を出してきた。受付当初は中学校の教員と考えて参加を承諾したが，実際に来校したのは中学校生徒であり，本校教員を驚かせた。「どうしても学校を見てみたかった」という気持ちを汲んで参加を認めたが，情報教育公開研が我々の目的と違った形で利用された一例である。

新教科「情報」に対する評価は賛否両論であると思われる。「情報」の教科書は買わせているものの，実際に行なわれている授業は数学であるという話も少なくない。また，本校情報教育公開研に参加される学校は私立学校が多く，公立学校は極めて少ないという実績もある。都立高校では，第1学年に教科「情報」を設置している学校は皆無に等しく，ほとんどが第3学年に設置していると聞いている。

一方，社会にコンピュータが普及し，「インターネット」も当たり前になりつつある現在，コンピュータリテラシーの取得や，正しい情報を入手しそれを加工して発信する知識・技術の体得は，現代の社会にとって必要不可欠な教育ではないかと本校は考えている。本校が研究し実践してきた情報教育とは，教科「情報」に留まらないあらゆる教科でのコンピュータネットワークの活用を目指したものであり，現在の「情報」教科書に含まれていない内容も包含しているものと考えている。

本校が提唱する「情報」教育の姿を，単に教育関係者にのみに発信するだけでなく，広く一般の方々に認知していただくきっかけをつくるという意味においても，周辺住民を対象とするインターネット体験教室の意義は大きいものであると考えた。

3．体験教室実施へ向けての準備

3－1．実施時期と対象者の検討について

保護者向けのインターネット見学会の実施実績は多数あるものの，新機軸としての実施であることから，実施に向けての準備は慎重に進められた。

今年度の第1回委員会である4月14日に，保護者向けとともに周辺住民向けのインターネット見学会（名称は「インターネット体験教室」とした）を実施することが正式に決定された。1ヵ月後の5月14日の委員会において，その具体案が検討された。保護者向けのインターネット見学会が4月と5月に開催されることになっていたことから，インターネット体験教室は6月に実施することとし，具体的には6月25日に実施することとなった。一番の懸案事項は対象とする住民をどのように設定すべきかということである。本校の通学路は世田谷区と目黒区に跨っており，幾つかの自治会が存在する。また，最寄駅としては東急田園都市線三軒茶屋駅と東急東横線学芸大学駅があり，駅周辺には商店街が存在している。従って，学校周辺と一口に言ってもその対象は広範囲に及んでいることになる。近隣住民をどの地域にするかについては様々な意見が出された。結論として，本校所在地内の自治会である下馬新生自治会の住民を対象とすることにした。本校に最も関係のある住民であり，かつ，試みとして実施する際にあまり広範囲の住民に声をかけることは安全面から考えても問題が生じる危険があるからで

ある。また，本校の教育を最も理解していただきたいのは，隣接する地域の方々であることはいうまでも無い。また，管理職が下馬新生自治会と懇談をもつ機会もあり，連絡をとる手段も容易であったこともある。

3－2．参加申し込みに配慮した点

実施時期と対象者が決定された段階で，次に配慮を検討されたのが，申し込み方法に関する点である。本校で初めての試みであったことから，この点に関しても詳細に述べておきたい。

3－2－1．申し込み用紙の配布と回収方法

インターネット保護者見学会の場合，生徒を通じて案内状を保護者に配布し，保護者からの参加希望は生徒を通じて担当教員に提出してもらう形を従来とってきた。

保護者に対する案内状には以下のように書かれている。

> 下の参加申込書にご記入の上、切り取って、＊月＊＊日（＊）までに，生徒を通じて生物研究室（本館２階，ドアのところにポストがあります。）小境までご提出ください。
> (中略)
> また，参加予定日の都合がつかなくなりました場合には，小境までご連絡ください（03-3421-5151）。

しかしながら，周辺住民へ呼びかける場合は，従来の方法を用いることは勿論できない。個々の住民に案内状を配布することも検討されたが，突然案内状を受け取って困惑する住民が出ることも予想される上，配布の手間が想像以上にかかることも予想された。自治会の掲示板にポスターの掲示を依頼することも検討されたが，どの程度掲示の効果があるかについて疑問が出された。検討の結果，管理職と下馬新生自治会長の間に連絡の方法があることから，案内状を複数枚作成して管理職に託し，自治会長を通じて住民への周知徹底と，案内状の配布をお願いする形にすることとなった。参加希望者の申込書は，自治会長に提出していただくこととし，提出期限までに提出された申込書を自治会長が集約して，本校の管理職に提出していただく形にすることとした。周辺住民に対する案内状には，以下のように説明することとなった。

> 下の参加申込書にご記入の上，切り取って，６月３日（金）までに下馬新生自治会長＊＊＊様を通じましてご提出ください。
> (中略)
> また，参加の都合がつかなくなりました場合には，学芸大学附属高校　小境までご連絡ください。
> (学校 TEL 03-3421-5151)

3－2－2．申し込みに際しての個人情報の扱い

個人情報保護法が施行されて，個人情報に関する取り扱いに関して以前にまして注意をする必要性が出てきた。本校においても，生徒の個人情報を提供いただく際に承諾書を得ることが要求されるようになり，かつ，その公開の範囲も極めて限られたものになってきている。生徒の氏名，保護者氏名，住所，電話番号等を記載した住所録も保護者への配布を取りやめ，あくまで学校内部の利用に限って作成されている。インターネット保護者見学会の申し込みにあたっては，生徒の学年，組，出席番号，氏名と保護者氏名を記入いただくに留めている。以下に申し込み用紙の一部を示す。

> インターネット保護者見学会参加申込書
> 参加保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
> 生徒：　　年　　組　　番

今回の周辺住民への案内状と申し込みを作成するにあたっても，その点に関しての配慮が必要であった。当初は，申し込みにあたって申込者の氏名だけを記入していただくことも検討された。これは，対象者が下馬新生自治会と限定されているため，必要な連絡は自治会長を通してしていただくことも可能ではないかという観点に基づくものである。しかし，緊急の事態に至った場合（教室の中止や急病の場合等）の連絡方法が得られていないのも，実施にあたっての責任上の問題とされる可能性があるという指摘もあった。検討の結果，強制をしない形で電話番号の記入をお願いする形をとることにした。以下に申し込み用紙の一部を示す。

> インターネット体験教室参加申込書
> 参加される方の氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
> お電話番号　（　　）＿＿＿＿＿＿

以上述べたようなことを考慮して，下馬新生自治会の住民に向けて案内状を次のように40部作成した。そして，2005年5月16日に本校副校長五十嵐から下馬新生自治会長に渡された。

平成17年5月16日

ご近隣の皆様

東京学芸大学附属高等学校
校長　杉田　洋

インターネット体験教室のご案内

初夏の日差しが感じられますこの頃、皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。ご近隣の皆様には、日頃本校教育にご理解とご助言をいただきまして大変感謝しております。
さて、この度、本校で実施しております情報教育の一環を、日頃お世話になっております近隣の方々に体験していただく体験教室を企画いたしました。コンピューターに触れ、本校の情報教育について理解を深めていただくよい機会になるかと存じます。お忙しい中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

記

日時：　6月25日（土）13：00～15：00
場所：本校別館3階視聴覚室　（正面玄関にご案内の地図の掲示あり）

内容：今回は、入門編として、Web検索・マルチメディア体験を行います。
今後、ご要望がございましたら、中級編を開催していく予定です。
何かご要望がございましたら、申込書の要望欄にご記入をお願いいたします。

下の参加申込書にご記入の上、切り取って、6月3日（金）までに下馬新生自治会長山野井様を通じましてご提出ください。緊急の場合に連絡させていただきますので、よろしければお電話番号をお知らせ下さい。
また、参加の都合がつかなくなりました場合には、学芸大学附属高校　小境までご連絡ください。
（学校TEL 03-3421-5151）

キ　リ　ト　リ　セ　ン

整理番号［　　］（こちらで記入します）

インターネット体験教室参加申込書

参加される方の氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お電話番号　　（　　）＿＿＿＿＿＿

内容などについてご要望がありましたら、下にご記入ください。

3－3．実施内容に関して配慮した点

3－3－1．参加申込者数

以上の案内状に対して，申し込み用紙を直接本校に持参された住民の方が2名いらっしゃった。また，6月7日に自治会長が副校長のもとへ申し込み用紙を提出にこられた。自治会長を経由して提出された申込者は10名である。合計12名の参加申し込みがあったことになる。当初，申込が全く無いのではないかという心配もあっただけに，企画した委員会は申し込みがあったことを素直に喜んだ。全く実施実績が無い状況で，かつ，今までにない企画に対して12名の参加があった点に関しては，周辺住民の本校に対する関心が少なからずあることを伺わせる。予想を上回る参加申し込み人数であった。

3－3－2．実施内容の検討

実施内容の検討については，本校情報教諭森棟が中心になって担当した。当初，案内状に記載した通り，本校の保護者に対する初級編をそのまま実施する予定で考えられていたが，森棟の提案によって次のように変更することになった。

1）電子メール体験を暑中見舞い作成に変更する。

保護者に電子メール体験をしてもらう目的は，生徒と同じ授業環境を体験してもらうことにあった。また，本校に通う家庭ではほぼ全員が少なくとも1台のコンピュータを持っており，それはインターネットに接続できる環境を有している。そのような中で，電子メールの体験をしていただくことは，電子メールになれていないと思われる保護者（特に母親）にとっては大変有意義な体験であると考えられていた。また，自分の子どもに対してメッセージを送ってもらう体験も大変有効な体験であり。アンケートでも好評を得ていた。

一方で，今回参加いただく周辺住民の方々は，コンピュータに関心をもたれており，コンピュータを持っていることは予想されるが，それがインターネットに接続されているかどうかは事前に調査していないため分からなかった。森棟はインターネットの接続者は少なく，電子メール体験もほとんど無いだろうと予想した。また，参加者は本校保護者よりも年配の方が多く，コンピュータリテラシーもそれ程身につけていないものと考えた。そのような対象者に対して，電子メールを体験していただいても有意義な体験であるとは考えられない。このような理由で電子メール体験は実施しないこととした。

その代わりに，暑中見舞いの作成を実施することとなった。実施時期が6月であったことから，暑中見舞いの作成はタイムリーな教材になると考えられた。また，実務的なワープロ機能を学んでいただくことによって，自宅でのコンピュータ活用の一助になると考えられた。

2）作成した暑中見舞いを10枚までプリントアウトし，プレゼントする。

保護者対象の見学会では，本校の施設を見学してもらうことと本校の情報の授業を体験してもらうことに主眼が置かれているので，持ち帰りができるのは，Web検索で検索した内容をプリントアウトした用紙（インターネット体験教室でも同様に実施）だけである。その意味では，インターネット体験教室で作成した作品を持ち帰ってもらう企画は初めての試みである。暑中見舞いの作品データを保存して持ち帰ってもらっても，アプリケーションの互換性から考えて，家庭での利用は難しい。作成した暑中見舞いをそのまま活用していただけるとい

うメリットに加えて，お土産があることで，学校に対しての好感度が上がるというメリットも考えられる。印刷する葉書代や印刷コストがかかるが，これに関しては教育工学の予算で賄うことで解決ができる。ただし，葉書の郵送にかかる切手代は参加者に負担していただくこととした。

3）参加者に実施する感想は，用紙に手書きの形で実施する。

保護者に対して実施するインターネット見学会に関する感想は，電子メールで本校教育工学委員会専用のアドレスに送信していただいている。これは，電子メールの体験の復習でもあり，電子ファイル化された文書を後で再編集できるという利点もある。

インターネット体験教室では1）に挙げたような理由で電子メール体験を行なわないこととしたが，感想はぜひ聞かせていただきたいということから，感想を求める用紙を配布し，そこに手書きで記入いただく形で実施することとした。

4）本校のインターネット施設の見学，校内案内は実施しない。

保護者に対しては，入学したての学校を見学してもらい，学校を知ってもらうために，校内の施設や教室を見学してもらうツアーを実施していた。
インターネット体験教室では，目的が実務的なコンピュータリテラシーの習得であり，本校の施設を見てもらうことが主目的ではないので，今回は教室の見学やバーチャルルーム，コンピュータ室の見学は実施しないこととした。

以上の実施内容の検討に基づいて，必要な物品の準備（プリンターの整備，印刷用の葉書の購入等）が進められた。実施前日の6月24日（金）に教育工学委員会を開催し，プリンター等の機器のセッティング，体験教室専用のデスクトップ環境の整備等が教育工学委員によって行なわれた。

4．体験教室当日の実施状況

4－1．午前中の準備

午前11時にTTを担当する教育工学委員が集合し，最終確認と案内の看板の設置，スリッパ，配布資料，出席者のチェック用紙の準備等が行なわれた。これに関しては，保護者見学会と全く同様の準備であった。

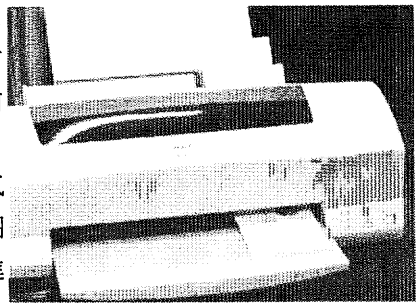
4－2．委員長および管理職からの挨拶

午後1時までに，申し込みをされていた12名の住民の方が集まり，インターネット体験教室が開始された。まず，始めに教育工学委員長坂井より本校の教育工学委員会の説明と今回の体験教室の開催趣旨を含めての挨拶があった。これについては，保護者に対する挨拶とほぼ同様である。今回は，本校副校長の五十嵐も駆けつけてくださり，挨拶をいただいた。落ち葉によって近隣住民におかけしている点について，今春の剪定によって多少改善されることを述べられた上で，今回の体験教室に参加していただいた感謝と本校への協力と理解を求めるお願いも込められた挨拶であった。

4－3．暑中見舞いの作成と印刷

講師を担当する情報科森棟の自己紹介と，TTの教員紹介の後，実習が始まった。実習内容の説明の後，コンピュータの起動方法の説明，統合ソフトAppleWorks6の起動方法，文字入力の仕方や飾り文字の作り方，素材画像の貼り付け方や大きさの変更の仕方などを説明し，暑中見舞いの作成作業に入っていただいた。保護者見学会と異なり，コンピュータの体験が初めてという住民の方も数名いらっしゃったが，講師以外の7名のTT教員が質問に対応することで，特に問題なく作業は進行していった。1時間ほどの作業で暑中見舞いが完成し，用意された葉書にプリントアウトをしてもらった。中にはデザインを変えて複数の暑中見舞いを印刷された方もいらっ

しゃった。お互いに顔見知りの住民の方も多く，本校に以前勤められていた方も参加いただき，和気あいあいとした雰囲気の中で，実習は進んでいった。

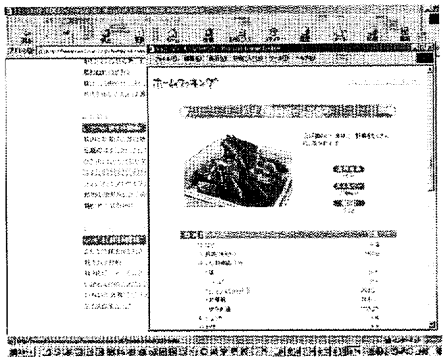


4－3．Web 検索の体験

葉書の印刷もほぼ終わった所で，Web ブラウザー FireFox を使った Web 検索の体験が行なわれた。検索サイト Yahoo の紹介の後，“暑中見舞い”でロボット検索を行い，今回の暑中見舞いを作るにあたって利用した素材集のあるサイト（Canon 暑中見舞い作成おたすけサイト，右図）の紹介が行なわれた。この中で，今回の素材集を利用する点に関して著作権の問題がない点が触れられていた。

その後，ディレクトリ検索の体験実習として，Yahoo の“生活と文化”からグルメ→料理→レシピとディレクトリを辿り，Yahoo 登録サイトから“キッコーマンホームクッキング”（下図）へと移動した。

その中の“20 分のスピード主菜”から好きなレシピを選んでいただき，プリントアウトをしていただいた。この体験に関しては保護者見学会と全く同様の実習方法を用いている。この頃にはコンピュータの操作にも慣れてきて，各自が思い思いのレシピを選ぶのを楽しみ，沢山のレシピを印刷された方が多かった。その点に関しては保護者と同様の反応であった。



4－4．感想・アンケートの実施

レシピの印刷がほぼ終わった所で，感想とアンケートの記入用紙を配布した。今回の体験教室の感想に留まることなく，今後の体験教室に対する内容の要望，学校への要望等，自由記述で書いていただくようにお願いした。参加者全員に感想を書いていただくことができた。予定よりもやや遅れたが午後 3 時 15 分頃に体験教室は無事に終了した。終了後も暑中見舞いの印刷やレシピの印刷をされている方も数名いらっしゃった。

5．寄せられたアンケート・感想

12 名の参加者から様々な要望や感想が寄せられた。その全文をそのまま以下に示しておく。

月 2 回くらいお願い致します。

大変楽しく勉強させていただきました。パソコンに初めて触ったのですがいろいろの事ができることが分かりました。また，ぜひこのような機会をつくっていただければと思います。

今日はありがとうございました。大変お手数をかけましたが，細かいご指導をありがとうございました。とても分かりやすかったです。次もよろしくお願い致します。

本日はありがとうございました。自宅の機種と違い少し戸惑いましたが，少しは進歩したと思います。附属高校が身近に感じられるようになりました。次回もお願いできたら幸いです。

自分の古いパソコンと違いとてもスムーズに進めて，気分よく研修できました。皆様の親切なご指導でとても

よく分かり，次回もぜひ参加させていただきたいと思いますので，よろしくお願い致します。次回も実務的なテクニックをお願いします。

講習会が無料であることは嬉しい。行政の教室に行くとだいたい有料である。そして，休日に関わらず多くの先生に出勤していただいて感謝します。生徒について一言。このごろ世間一般のお行儀が悪くなっているが，この間道を歩きながら，二本箸で食べている生徒を見かけた。天下の附属校生はやめていただきたい。再度講習会お願い致します。今年は銀杏の木を切って，銀杏が少なくなって残念です。銀杏拾いをよろしく。

ご指導いただいた先生方がとても分かりやすく，勉強が身に入りました。次回も楽しみにしております。これを機会に開かれた学校とともに私達も交流できたらと思っています。家庭科，書道等々お願い致します。

とても参考になりました。もう少し体験したく思います。本当にありがとうございました。

今日はありがとうございました。初めて暑中見舞いのはがきが作れて，とても嬉しく自分にもできたのだと，これからもインターネットを続けていきたいと思いました。ぜひ，またこのような体験教室をお願いします。

マッキントッシュをはじめて触ったので，ウインドウズとは違うんだなあと思いました。ウインドウズもあまり分からないので難しかったです。一度間違えると自分ではどうしようもなくなってしまいます。もし，次回参加できたらレシピを作ってみたいです。家計簿もつけてみたいです。ありがとうございました。

本日はありがとうございました。難しかったです。今後の希望としましてはデジカメのプリントアウトの仕方やデジカメのデータをはがきにレイアウトするやり方等を教えていただけると嬉しいです。親切丁寧に教えてくださり，ありがとうございました。

大変参考勉強になりました。ぜひまた開催して下さい。特に住所録とか家計簿等の表計算を習いたいと思います。皆様すごくやさしくて efficient でありがとうございました。暑い中折角の土曜日を使ってくださって感謝しております。

また，帰る道すがらの住民の会話の中に「今日のことで私はすっかり学芸のファンになったわ」「オレもできることは協力したくなったよ」という声を聞いたという教員の報告があったことも付け加えておきたい。

6．体験教室実施の効果についての考察

6－1－1．感想・アンケートから分かったこと

近隣住民の参加者12名から寄せられた感想･アンケートから分かったことを以下にまとめておきたい。

1）また，やって欲しいという声が大変多く寄せられた。

インターネット保護者見学会では，初級編に再度参加したいという声はほとんど無く，教員への感謝の声，コンピュータ操作への戸惑いの声等が大部分を占めている。今回参加した周辺住民の大部分は，「今後もこのような企画を継続して欲しい」「また，参加させて欲しい」という感想を書かれていた。さらに，具体的な要望も数多く寄せられており，インターネットを活用する実習ではなく，表計算やデジカメの活用等，実務的なテクニックの習得を期待していることが分かる。また，頻繁に体験教室を開催して欲しいという要望が寄せられている点は，保護者のアンケートには見られない特徴であるといえる。

2）他教科での体験教室を望んでいることが分かった。

保護者見学会でのアンケートでは，このような企画に対しての感謝の意は多く寄せられるが，他教科での企画を考えて欲しいという要望は皆無である。周辺住民の一部の声ではあるが，情報科に留まることなく書道や家庭科などでの体験教室の要望が寄せられている点は，1）とともに保護者のアンケートには見られない特徴であるといえる。

3）本校の教員の指導に関する良い評価が書かれている。

保護者にとっては，面識が無くても指導担当者やTT担当者が本校の教員であることを知っている。学年担任と接している中で本校の教員がどのような指導をしているかは予め知っているので，その指導に対しての評価は概ね良好であるのは，ある意味では当たり前と考えられるし，少し気になることがあってもなかなか本音を書いていただけないのが実際であると思われる。

周辺住民の方々にとっては，接する教員全員がある意味で「面識の無い他人」であり，学校をよく知らない方

にとってはどのような人物がどのような指導をしてくれるのかについて全く分からない状態で参加され，不安を感じていた方も少なくないものと想像される。2時間の体験教室を体験された後の感想として見ると，全く見ず知らずの指導者に対する評価は概ね良好であることが，感想から読み取れる。これは保護者の感想以上に本委員会の分析の材料として評価してもよいのではないかと考えている。何故ならば，面識の無い方々の評価は多少の差し引きは必要であるにしても，我々の活動に対する正直な声であり，「本校教員であるから」という前提無しに書かれていると考えられるからである。これは，本校のTT活動が一般の方々から見ても適切に機能しているという評価の表れであると理解したい。また，このような体験会を実施することで，本校（教員）に対する認識が変わる可能性があることも示唆しているものと考えられる。

6－1－2．担当教員及びTT教員の気づいたこと・感想

以下担当した教員及びTT教員の気づいたことそして感想を挙げておく。

・参加される方の中には，学校自体に入るが久しぶりという人もおり，上履きに履き替えたり，視聴覚教室では，その上履きもぬいだりというようなことに不快感をもたれる場面に遭遇した。
・暑中見舞いを作成したが，事前に知っていれば，写真を持参したのに，というかたもおり，募集段階での内容の提示が必要と思われる。
・学校行事のたびにお世話になっているので，その行事の写真などを使って紹介してみたらどうでしょうか。
・参加された方々はコンピュータに慣れているという印象はないものの，どなたも非常に積極的に感じられた。暑中見舞いなど実用的でお土産にもなり，そしていろいろと工夫する余地のあるものということで喜ばれていたようだ。
・近隣の住民の方々は近くて遠い存在と感じていたが，今回の活動を通して少しではあるが本校を理解して頂けたのではないかと考えている。学校は広大な敷地を有しており，地域と共生していけることが望ましいと思うが，お互いの理解は少ないというのが現状であろう。参加された方々を発端に，交流の輪が広がっていくことを望んでいる。

6－2．体験教室実施の効果について

国立大学法人化後に望まれる「開かれた学校」づくりの試みとして，体験教室の実施はその目的を十分に果たし得るものであると思われる。現代社会でその活用が当然のこととなりつつあるコンピュータの実務的なテクニックを指導することによって，学校に対する閉鎖的な雰囲気が払拭され，「身近な学校」「協力したくなる学校」へと変化するきっかけづくりになり得ることは，今回の参加者の感想から十分に期待されていると考えられる。

感想の1つに「講習会が無料である」ことのありがたさが述べられていた。大学で実施される公開講座や一般のカルチャーセンターでの講習会は，額の多少はあるものの有料であることが大半である。参考までに，東京学芸大学で実施されている「教師のためのインターネット入門教室」（8月2日～4日に実施）は，講習料として7200円が設定されていた。学校の教員の本職は自校の生徒への教育活動であり，それ以外の教育活動に対してそれ相応の対価を求めることは当然のことかもしれないし，その点に関して行政が対応を検討することが求められているのかもしれない。しかし，教員が自分のもっている知識を広く一般の方々（少なくとも周辺の住民の方々）に広めていくことが好ましくないことであるとは思われない。学校教育の理解のためにむしろ積極的に進められていくべきことではないであろうか。

ボランティア活動としてこのような体験教室を実施することも大切であるが，有効な活動に対しては関係する大学法人や行政からの人的・経済的援助が望まれることはいうまでも無いことである。しかし，それを待っていては「開かれた学校」は遠のくばかりである。今回の実践をきっかけに，本校の「開かれた学校づくり」を本委員会が少しずつでも推進できればと考えている。

7．体験教室実施に際する今後の課題

周辺住民の方々を対象とするこのような体験会が大変有意義であり，学校にとっても有用なものであることが分かってきたが，実施によって分かってきた課題も少なくない。その課題を述べておきたい。

1）対象住民の拡大がどこまではかれるか。

今回は本校所在地のある自治会を対象とし，極めて限られた区域の住民を対象に実施した。今回の成果を受けて可能な限り広範囲の方々に呼びかけを行なうことが検討されて良いと考えている。ただし，その案内方法や申し込み方法もさることながら，どの程度の範囲まで対象

範囲を広げていけばよいのかが最大の課題であると思われる。今年度，本校の学校説明会をWebページの申し込みで募った所，1週間程度の申し込み期間に600組近い申し込みがあったと報告されている。この方法で広範囲の方々への参加を募る方法も考えられるが，Webでの申し込みができる方々にインターネットやコンピュータの体験教室を募るのも本末転倒な印象がある。また，募集範囲が広がれば広がるほど，不特定多数の参加者が希望されることが予想され，その対応がどの程度まで可能かが予想できないだけに，募集の拡大は慎重にせざるを得ないと考えられる。

2）コンピュータリテラシーが著しく異なる方々にどのような指導をしていけばよいか。

保護者見学会と異なり，今回のインターネット体験教室ではコンピュータリテラシーが著しく異なる参加者が混在していた。コンピュータに触るのが初めてという方から，多少の心得があってワープロの入力は全く問題が無い方まで実に多彩であった。7名の経験豊富な教員によるTT体制によって，特に指導に問題は無かったが，今後も継続していくことを考えると，どのように対応していけばよいかを検討する必要がある。体験内容を明記し，初心者，初級，中級とコースを細分化することが考えられるが，この点は今後の検討の余地がありそうである。

3）年に何回程度実施を考えていけばよいか。

アンケートには「月2回」という要望もあったが，これは実質的には難しい。保護者対象の見学会が各学期に2回（3学期は実施していない）であることから，周辺住民に対しても同程度の回数の実施が期待されていると考えられる。ただ，保護者はどんどん入れ替わっていくのに対して，周辺住民はほとんど同じメンバーであることから，内容の吟味も含めて難しい課題も多い。ただ，同じアプリケーションを使って「暑中見舞い」「クリスマスカード」「年賀状」というように季節に合わせて同様の企画を実施する等，工夫の余地があるかもしれない。

4）どのような内容を企画していけばよいか。

3）でも述べたが，参加者のアンケートから様々な実施内容の要望が寄せられている。多種多様な要望にどのように対応し，どのような体験教室を企画していけばよいかは，保護者見学会と同様に今後の大きな課題であるといえる。また，参加者の年齢層から考えると，Webページ作成体験はそれほど希望が無いようであり，保護者対象の中級編の指導実績がそのまま生かせない点も問題点の一つであろう。ただ，初心者にとってはどんな小さなことでも，指導してもらえることはありがたいと考えているようなので，その点が今後の課題を解決する糸口となるのではないかと考えられる。

5）インターネット教室以外に内容が検討できるか。

情報科によるインターネット体験教室だけが「開かれた学校」づくりを推進する企画ではないだろう。現に住民の要望の中に「書道や家庭科の体験教室」を望んでいる声もあった。学校の中にカルチャーセンターを望むのは無理があるだろうが，できる範囲で学校教育を知ってもらう企画ができるのではないか，大学と同様の公開講座が無料（もしくは安価）で実施できないかという課題が，今回の実践で明らかになったと思われる。

今年度の公開研究会の中にも，国語科で実施した講演会，理科や地歴科で実施している実験教室や野外実習への参加等が試みられている。この対象は教育関係者であるが，これらの企画を広く一般の方々に公開する機会が考えられても良いのではないだろうか。化学科の一教員は「博物館等で実施されている子ども向けの実験教室を本校で実施できないか」という考えをもち，その実施を模索しているようである。このような動きが本校全体に浸透していくことが，「開かれた学校」づくりのために望まれているだろう。

ただ，学校全体のコンセンサスを得ていくためには，かなり時間がかかるものと考えられる。教育工学委員会はあらゆる教科科目の教員の集団であり，専門的な教養をもち，かつ，ボランティア精神に富んだ教員が多い。教育工学委員会で企画実施した今回のインターネット体験会が発展して，各教科での講習会へと発展していくことが，最も実現へ向けての近道ではないかと考えられる。時間がかかることだと思われるが，今回の実践を継続しつつ，その発展方法に関しても委員会で継続して検討していきたいと考えている。

8．謝　辞

本実践を快く承認していただき，実践の場に出席して挨拶をしていただいた本校副校長の五十嵐一郎先生に，この場を借りて，心より感謝を申し上げます。また快く連絡という責務を受けて頂いた下馬新生自治会長山野井様に心より感謝致します。

＊本稿は，第47回全国国立大学附属学校連盟高等学校部会教育研究大会（筑波大学附属駒場中・高等学校で開催）新課程分科会で発表した内容を含んでいることを付け加えておきます。

9．参考文献

教育工学委員会：必修「情報」授業と学校諸活動におけるコンピュータの活用，東京学芸大学教育学部附属高等学校　研究紀要　Vol39，155-228，平成14年3月